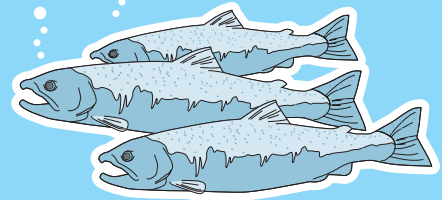


ビワマス通信

vol.9



生物多様性の保全を進めるモデル事業

天野川ビワマス遡上プロジェクトが組織されてから、今年で3年目を迎えます。米原市とビワマスにどのような関わりがあるのか改めて考えてみます。

お問い合わせ

経済環境部 環境保全課(伊吹庁舎)
☎58-2230 ☎58-1630
県 醒井養鱒場 ☎54-0301

醒井養鱒場の歴史とビワマス

明治11年(1878年)に設立し、130年以上の歴史がある醒井養鱒場。東洋一の養鱒場とも呼ばれ、県内外から多くの方が訪れています。みなさんも、学校の授業などで一度は訪れたことがあるのではないのでしょうか。

この醒井養鱒場は「ニジマス」の養殖で有名ですが、実は「ビワマス」の増殖を目的に設立されたということをご存じですか。

霊仙山麓に位置する醒井養鱒場は、「鍾乳水」という湧き水で魚を飼育し

ています。醒井溪谷の源流である鍾乳水は、毎秒約250リットルの水が湧き出ており、清涼で水量豊富なこの水を使って、ビワマスの増殖事業が始まりました。

明治41年には、全国に先駆けてビワマスやニジマスなどの完全養殖に取り組み、醒井養鱒場の代名詞であるニジマスは、この頃から順調に養殖に成功していききました。一方、ビワマスは警戒心が強く、人に馴れないことや、成育が悪いことから、採算のとれる養殖は不可能とされてきました。

昭和50年代から再びビワマス養殖の研究が始まり、平成17年にはふ化後20か月で体長40cm(体重1kg)以上に成長する「高成長系品種」の養

殖に成功しましたが、この高成長系品種の養殖ビワマスも、天然ビワマスと同様に、成長すると成熟して卵に栄養がまわり、産卵後は死んでしまっていました。

そこで、醒井養鱒場では、成熟せずに良好な肉質のまま成長する、新たな養殖ビワマス(全雌三倍体ビワマス)の研究に取り組み、平成24年8月にその養殖化に成功しました。

このことにより、一年を通じて美味しいビワマスの養殖が可能となり、今後は市場に出回ることが期待されています。



▲滋賀県醒井養鱒場

ビワマス

- サケ科の琵琶湖固有種
- 大きいものは体長60cm、体重2kgを超えるものも
- 普段は、琵琶湖北部の深くで冷たい場所(水深20m程度)に生息
- 3年から5年をかけて成魚となり、生まれた河川に遡上して産卵
- 琵琶湖でコアユやエビ類を食べて成長
- 上質な脂がのり、淡水魚の中で最も美味しいと言われる
- 年間20~30tの漁獲量(琵琶湖全体の約1~2%)



▲養殖ビワマス(醒井養鱒場提供)

ビワを味わう

養殖ビワマスは、醒井養鱒場から長浜市や彦根市など県内の養殖業者に配布が開始されていますが、まだまだ流通し始めたばかりで、米原市内で取り扱っているお店は醒井養鱒場周辺の料理店など、数少ないのが現状です。

市では、米原市商工会と連携して、天然ビワマスを含め、ビワマスを市の特産品にし、市内の多くの料理店で食べることができるようにしたいと考えています。

米原の美しい水が育んだビワマスを、みなさんもぜひ一度味わってみてください。

3月
12日
(火)

天野川岩脇地先 本格魚道完成！ 息長小学校 稚魚放流

ビワマスの遡上を妨げている第一関門（岩脇地先にある堰堤）に、ビワマス遡上プロジェクトの念願であった第1号の本格的な魚道が完成し、その報告会と、息長小学校5年生によるビワマス稚魚の放流が行われました。

子どもたちは、3年から5年後の秋に、成長して戻ってくるビワマスの姿を思い描きながら、元気に泳ぐ稚魚の様子を歓声を上げて見守っていました。

報告会では、魚道を設置した滋賀県長浜土木事務所担当者から、魚道についてのお話を伺い、続いて、子どもたちが校内に設置された簡易ふ化施設で、体長4cmほどまで育てたビワマスの稚魚約900匹を放流しました。

完成した魚道は、深みがあれば、ある程度の障害物を飛び越えられるというビワマスの習性を利用したもので、段差30cmの3段からなる階段式魚道と、同じく段差30cmの2段からなる半円状の柵田式魚道を組み合わせたものです。



3月
17日
(日)

天野川箕浦地先 簡易魚道完成！

岩脇地先から、さらに上流の箕浦地先の堰堤で、第2弾となる簡易魚道の設置作業が、ビワマス倶楽部のメンバーを中心に行われました。

今回設置された魚道は、昨年9月に岩脇地先に設置されたものを改良し、再利用したもので、昨年10月には、この魚道を遡上するビワマスの姿も確認することができました。参加したみなさんは、2回目の作業とあって、手際良く作業を進めていました。

今後、この場所にも本格的な魚道が設置される予定で、さらに上流へとビワマスが遡上することが期待されます。



3月
24日
(日)

ビワマス稚魚放流 イベントを開催！

天野川支川の丹生川で昨年に引き続きビワマス稚魚の放流イベントが行われ、冷蔵庫ふ化実験の参加者や地元の子どもたちなど、約130人のみなさんが参加しました。

今回の放流では、市民のみなさんや市役所で育てたビワマスの稚魚約1,000匹のほか、滋賀県漁業協同組合連合会が育てた10,000匹もあわせて放流されました。

参加されたみなさんは「カムバック・ビワサーモン」の掛け声に合わせてながら、体長4cmほどに成長した稚魚を放流し、ビワマスが大きく育つて戻ってくる姿を想像しながら、元気に泳ぐ稚魚を見守っていました。この日は、米原市商工会が開発したビワマスのさつまあげなども振る舞われました。

